

# 第二言語習得における日本語の再帰代名詞：自分・自分自身・彼/彼女自身

王 晨・鈴木 孝明 (京都産業大学)

## 目的

中国語を母語とする日本語第二言語習得学習者における日本語の3種類の再帰代名詞「自分」「自分自身」「彼/彼女自身」について調査し、これらに関する適正先行詞パラメータと統率範疇パラメータの特徴を明らかにする。

## 日本語の三つの再帰代名詞

「自分」「自分自身」「彼/彼女自身」

## 二つのパラメータ

適正先行詞パラメータ 統率範疇パラメータ

## 中国語と日本語の再帰代名詞における二つのパラメータの値

|     |        | 適正先行詞パラメータ |     | 統率範疇パラメータ |       |
|-----|--------|------------|-----|-----------|-------|
|     |        | 主語         | 非主語 | 局所束縛      | 長距離束縛 |
| 日本語 | 自分     | ○          | ×   | ○         | ○     |
|     | 自分自身   | ○          | ×   | ○         | ×     |
|     | 彼/彼女自身 | ○          | ○   | ○         | ×     |
| 中国語 | 自己     | ○          | ×   | ○         | ○     |
|     | 他/她自己  | ○          | ○   | ○         | ×     |

### ◆ 適正先行詞パラメータ

看護師<sub>i</sub>が 美容師<sub>j</sub>に 自分<sub>i/\*j</sub>/自分自身<sub>i/\*j</sub>/彼・彼女自身<sub>i/j</sub>のカバンを 見せた。

### ◆ 統率範疇パラメータ

編集者<sub>i</sub>は 作家<sub>j</sub>が 自分<sub>i/j</sub>/自分自身<sub>\*i/j</sub>/彼・彼女自身<sub>\*i/j</sub>を 憎んでいると言った。

## 結果

### 学習者の正解率 (%)

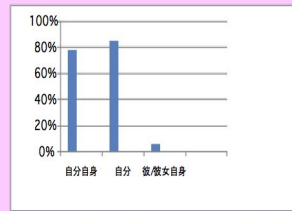
|        | 適正先行詞<br>パラメータ  | 統率範疇<br>パラメータ   |
|--------|-----------------|-----------------|
| 自分自身   | 78.1%<br>(0.27) | 52.1%<br>(0.27) |
| 彼/彼女自身 | 6.3%<br>(0.17)  | 58.3%<br>(0.29) |
| 自分     | 85.4%<br>(0.24) | 14.6%<br>(0.27) |

### 日本語母語話者の正解率 (%)

|        | 適正先行詞<br>パラメータ  | 統率範疇<br>パラメータ   |
|--------|-----------------|-----------------|
| 自分自身   | 97.1%<br>(0.08) | 70.2%<br>(0.25) |
| 彼/彼女自身 | 9.0%<br>(0.18)  | 76.0%<br>(0.20) |
| 自分     | 95.2%<br>(0.10) | 28.8%<br>(0.33) |

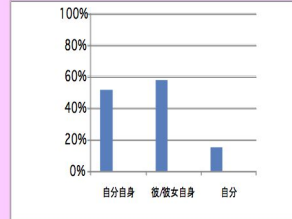
註：\* ()内は標準偏差

- ◆学習者は「自分」と「自分自身」の主語指向性を除いて正解率が低かった
- ◆学習者と日本語母語話者の3つの再帰代名詞に関する正解率には同じ傾向が見られた
- ◆統制群の正解率には、高いものがあった



学習者の適正先行詞パラメータに関する正解率

3つの再帰代名詞間で差があった：  
「自分」、「自分自身」>「彼/彼女自身」  
(F=119.469, P<.001)  
「自分」>「彼/彼女自身」(p<.001)  
「自分」>「自分自身」(p<.001)



学習者の統率範疇パラメータに関する正解率

3つの再帰代名詞間で差があった：  
「自分自身」、「彼/彼女自身」>「自分」  
(F=16.954, P<.001)  
「自分自身」>「自分」(p<.001)  
「彼/彼女自身」>「自分」(p<.001)

## 先行研究

- i) 上級学習者は「自分」に関する2つのパラメータ値の(再)設定が可能である(Thomas, 1995; 白畑2006)
- ii) 統率範疇パラメータに関しては、局所束縛の解釈の方が長距離束縛の解釈よりも早く習得される(白畑, 2006)
- iii) 2つのパラメータ値の設定に関しては、相関がないとする結果(白畑, 2006)と一方のパラメータを設定すれば、他方の設定は学習しなくても習得が可能かもしれないとする提案(White, Hirakawa & Kawasaki, 1996)がある

## リサーチクエスション

- (1) 中国母語話者は第二言語習得において日本語の再帰代名詞の二つのパラメータの再設定できるのか
- (2) 「自分」・「自分自身」・「彼/彼女自身」の習得に関して三つの再帰代名詞の間に差があるのか、また差があるのなら、どのような差があるのか。

## 実験

### 被験者

統制群(日本語母語話者)：日本語を母語とする19歳から24歳までの大学生26名  
被験群(学習者)：中国語を母語とする19歳から32歳までの日本語学習者の大学生31名で、全員日本語能力試験2級程度。(分析対象は予備テストに合格した24名)

予備テスト：本テストで使用する文型が習得できているかどうかを確認する空所補充問題(2タイプ2トークン 合計4問：それぞれのタイプで2問とも不正解の学習者除く)

タイプ1 (適正先行詞パラメータを調査した実験文と同じ構造)  
朝子さんは 彼氏\_\_ 旅行の 写真\_\_ 見せた。  
A. に、を B. が、に C. が、が D. に、が

タイプ2 (統率範疇パラメータを調査した実験文と同じ構造)  
高田さんは 山本さん\_\_ ケーキ\_\_ 食べていると いった。  
A. が、に B. を、を C. が、を D. に、を

本テスト：再帰代名詞の解釈を調査(6タイプ4トークン+ダミー6文 合計30問)

タイプ1 (適正先行詞パラメータを調査した実験文)  
例：太郎は 次郎に 自分の鞆を 見せた。  
A. 太郎のみ B. 次郎のみ C. 太郎でも、次郎でもよい D. 太郎、次郎以外の誰か

タイプ2 (統率範疇パラメータをした実験文)  
例：祖父は 孫が 自分を 嫌っていると 言った。  
A. 祖父のみ B. 孫のみ C. 祖父でも、孫でもよい D. 祖父、孫以外の誰か

## 結果のまとめ

1. 学習者による3つの再帰代名詞の2つのパラメータの設定はどれも不完全だった
2. 学習者は、部分集合の原理にしたがって、制約の厳しいパラメータ値から制約の緩いものへと習得していく
3. 統制群の正解率には、高いものがあった

## 「自分自身」に関する分析

中国語には「自分自身」に対応する再帰代名詞がないので、日本語習得において転移は起こりえない。

合格者数をもとにした分析(カイ二乗分析)：合格ラインは4トークン中3問以上の正解

|                         | 適正先行詞パラメータ               | 統率範疇パラメータ                |
|-------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 学習者<br>(合格者数/不合格者数)     | 19人/5人 (p=.004)<br>有意差あり | 8人/16人 (p=.102)<br>有意差なし |
| 日本語母語話者<br>(合格者数/不合格者数) | 26人/0人 (p=.000)<br>有意差あり | 19人/7人 (p=.019)<br>有意差あり |

- ◆適正先行詞パラメータの合格者数は、学習者と母語話者は同じ傾向にある。(合格>不合格)
- ◆統率範疇パラメータの合格者数は、学習者と母語話者では異なる傾向にある。(学習者：合格<不合格、母語話者：合格>不合格)

## 結論

1. 中国語母語話者による日本語再帰代名詞のパラメータ設定は困難である。
2. 中国語を母語とする学習者は、部分集合の原理にしたがって、制約の厳しいパラメータ値から制約の緩いものへと習得していく。
3. 二つのパラメータを連動しているのではなく、独立して設定され、三種類の再帰代名詞の2つのパラメータを正しく設定するのは困難が伴う。
4. 中国語から転移の可能性がない「自分自身」は、適正先行詞パラメータの再設定は容易だが、統率範疇パラメータの再設定は困難である。